

都市再生整備計画 事後評価シート
赤羽根地区

平成23年3月

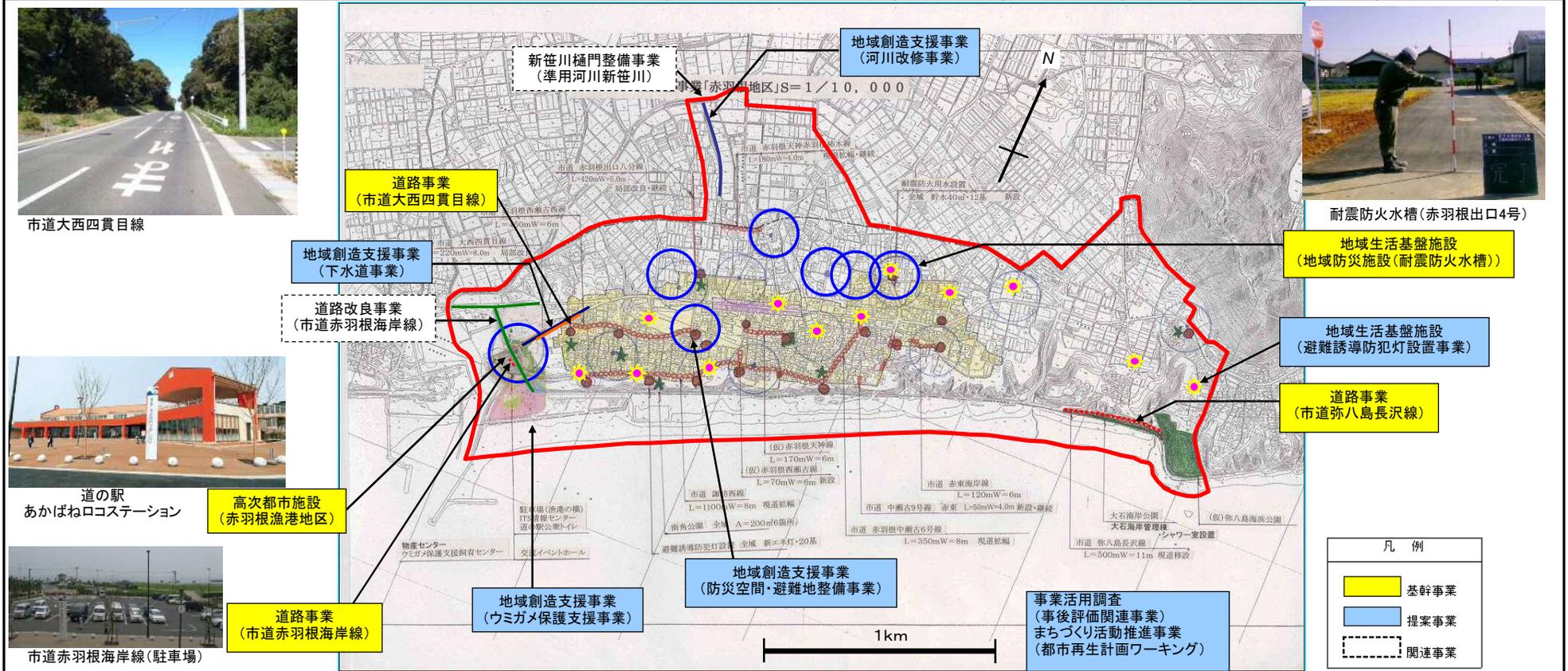
愛知県田原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	田原市	地区名	赤羽根地区			面積	270ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	1,344	国費率	0.415					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 道路事業(市道弥八島長沢線、市道大西四貫目線) 地域生活基盤施設(地域防災施設(耐震防火水槽)) 高次都市施設(道の駅観光交流センター(情報センター・トイレ・駐車場)) 地域創造支援事業(市道狭隘道路拡幅事業、避難誘導防犯灯設置事業、ウミガメ保護支援センター) まちづくり活動推進事業(都市再生計画ワーキング)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①道路事業(市道赤羽根中瀬古5号線、市道諏訪西線、市道(仮)赤羽根天神線、市道(仮)赤羽根西瀬古線、市道赤羽根西瀬古西線、市道赤東海岸線、市道赤羽根天神赤羽根柿木線、市道赤羽根八分線、市道中瀬古9号線) ②地域生活基盤施設((仮)弥八島海岸公園、(仮)赤中広場、街角広場、大石海岸広場、赤羽根海岸公園)		①、② 事業の実現性や必要性など整備優先度の総合的な判断により削除。		①当該事業の取り止めは、一部市街化調整区域を含む都市再生整備計画区域内道路の整備率等の指標に影響を与えたと考えられるが、数値目標は据え置く。 ②当該事業の取り止めは、入込み観光客数等の指標に関連するものの、その影響は小さいと考え、数値目標は据え置く。					
		提案事業	①地域創造支援事業(市道狭隘道路拡幅事業) ②地域創造支援事業(ウミガメ保護支援センター)		①対象案件はあったものの、申込者が現れなかったため削除。 ②事業の実現性や必要性など整備優先度の総合的な判断により削除。		①当該事業の取り止めは、一部市街化調整区域を含む都市再生整備計画区域内道路の整備率等の指標に影響を与えたと考えられるが、数値目標は据え置く。 ②当該事業の取り止めは、入込み観光客数等の指標に関連するものの、代替事業として「ウミガメ保護支援事業」を創設したため、数値目標は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	①道路事業(市道赤羽根海岸線)		①道の駅あかばねロコステーション利用者の利便向上のため、他事業で実施済みの進入道路と一体となる道路敷地内駐車場の整備を追加。 ①ウミガメ保護支援センターが削除されたものの、その支援は必要との判断から追加。		①当該事業の追加は、入込み観光客数等の指標に関連するものの、その影響は小さいと考え、数値目標は据え置く。					
		提案事業	①地域創造支援事業(ウミガメ保護支援事業) ②地域創造支援事業(下水道事業) ③地域創造支援事業(防災空間・避難地整備事業、河川改修事業) ④事業活用調査(事後評価関連調査)		①道の駅あかばねロコステーションの浄化槽の管理を容易にすべきとの判断から追加。 ③地区の安全性・防災性が最優先との判断から追加。 ④交付金による事業効果を専門的な立場からの分析が必要との判断から追加。		①当該事業の追加は、「ウミガメ保護支援センター」の代替整備であるため、数値目標は据え置く。 ②当該事業の追加は、災害に強いまちづくり満足度等の指標に関連するものの、その影響は小さいと考え、数値目標は据え置く。 ③当該事業の追加を踏まえ、「災害に強いまちづくり満足度」を新たに指標として追加した。 ④当該事業の追加は、各目標への影響はない。					
交付期間の変更	当初変更	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	市街化区域内道路の整備率	単位 %	基準年度 H15	目標年度 H22	モニタリング	評価値 36.56	×	あり	市道事業(市が実施)と市道狭隘道路拡幅事業(市民の申出)により改善を図ることとしていたが、市道事業は整備優先度の見直しのため従前幅員が4m未満の市道事業が削除されたことと、また、市道狭隘道路拡幅事業は事業への申込者が現れず、結果、事業とりやめとなったことから、これらにより整備改善につながらなかった。ただし、従前4m以上の市道整備により、災害に強いまちづくりが進んだ。	H23.7	
	指標2	入込み観光客数	単位 人/年	基準年度 H14	目標年度 H22	モニタリング	評価値 53万	○	あり	交付金事業により、道の駅あかばねロコステーションを核とした受入れ体制が整ったことが、入込み客数の増加につながった。	H24.7	
	指標3	市街化区域再生検討会参加者数	単位 人	基準年度 H15	目標年度 H22	モニタリング	評価値 515	○	あり	地域住民(一部市街化調整区域の住民も含む)参加型の市街化区域再生検討会の開催数と地域住民の地域に対する思いが参加者数の増加につながった。	H23.7	
	指標4	災害に強いまちづくり満足度	単位 %	基準年度 H18	目標年度 H22	モニタリング	評価値 91.50	○	あり	交付金事業による、河川改修事業等の防災対策に資する事業の実施と事業に対する地域住民への周知が満足度向上につながった。	H23.7	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	道の駅あかばねロコステーションの年間利用者数	単位 人/年	基準年度 整備前予測	目標年度	モニタリング	評価値 28万			交付金事業により、道の駅あかばねロコステーションを核とした受入れ体制が整ったことが、計画利用者数を上回る実績につながった。	H24.7	
4) 定性的な効果発現状況	道の駅あかばねロコステーションが整備されたことにより、地域住民同士並びに地域住民と観光客の交流の場ができた。また、地域住民の新たな雇用の場の創出や農作物等の販売の場の創出につながった。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	住民参加プロセス	①「道の駅」(地域観光交流センター)の整備における、市民参加による道の駅運営準備協議会の開催 ②ウミガメ保護支援事業における、市民団体あかばね塾によるアカウミガメの保護及び自然環境の保全活動 ③住民主導型の市街化区域再生検討会の実施(都市再生整備計画事業の事業説明、道路整備説明会、防災基盤整備の協議、河川改修の事業説明など)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ①現在、出品者の募集や田原の夜店の開催について市民参加で行っている。今後も地域住民との連携は継続していく。 ②引き続き、関係団体と連携しながら実施していく。 ③今後も地域住民と連携しながら、必要に応じて実施していく。			
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			

様式2-2 地区の概要

赤羽根地区(愛知県田原市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
『住民が、安心して暮らして楽しい笑顔のある街づくりの推進』 目標1 自然環境と共生した、災害に強い街づくりを進める。 目標2 交流空間を持つ郊外型街づくりを推進する。	市街化区域内道路の整備率	単位:%	36.56	H15	50.00	H22	36.56	H22
	入込み観光客数	単位:人/年	22万	H14	30万	H22	53万	H22
	市街化区域再生検討会参加者数	単位:人	0	H15	400	H22	515	H22
	災害に強いまちづくり満足度	単位:%	59.40	H18	65.20	H22	91.50	H22
	道の駅あかばねロコステーションの年間利用者数	単位:人/年	19万	整備前予測	-	-	28万	H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修事業や道路事業、防災空間・避難地整備事業、避難誘導防犯灯設置事業等により着実に地域の安全性・防災性は向上しているが、4m未満の市道の解消が課題として残っている。 道の駅あかばねロコステーションを核とした受入れ体制づくりが行われ、赤羽根地区への入込み客数は増加した。しかし、利用者が当初予想を大幅に上回り、土・日・祝日を中心として、駐車場が不足し、利用者ニーズに応えられない。また、周辺道路に路上駐車されることがあり、交通安全対策が必要となっているという新たな課題が発生した。 市街化区域再生検討会の開催と会への多くの住民(一部市街化調整区域の住民も含む)の参加が得られた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 狭隘道路については、交通安全対策や避難路、緊急車両の通行、その他災害対策の妨げにならないよう、時間をかけてでも、建物のセットバックなどにより道路用地を確保し、その拡幅に努めていく。そのため、狭隘道路の解消に向けた条例化の検討や市民の意識改革のためのPR活動の強化を行う。 地域のさらなる安全性・防災性の向上を図るため、事業の整備優先度の見直しにより計画変更となった道路や公園、広場、避難誘導防犯灯の整備を行う。なお、整備にあたっては、今回同様、住民との協働のもと実施していく。 道の駅あかばねロコステーションを核として赤羽根地区への入込み客数の増加・維持するため、地域住民との連携を継続しながら、魅力の維持・向上やアクセス性の一層の向上とともに、広報・PR活動の強化等を行う。また、駐車場不足に対しては、駐車場の適地選定など、新たな駐車場の確保に向けた取り組みを行う。